



とつか 2023年4月会報 第342号

- 国際会長(IP) Ulrik Lauridsen (Denmark)
2022 主 題 “Let Your Light Shine” 「輝かそう、あなたの光を」
スローガン ‘Good Communication is the Cornerstone in Every Cooperation’
「良いコミュニケーションは、全ての協力関係の基礎である」
アジア太平洋地域会長(AP) Chen Ming Chen (Taiwan)
~ 主 題 “Elegantly Change Let with New Era” 「新しい時代とともに、エレガントに変化を」
スローガン “Doing It Right Now” 「今すぐ実行を」
東日本区理事(RD) 佐藤重良 (甲府 21)
2023 主 題 “Let's act now for the future” 「未来に向けて今すぐ行動しよう」
スローガン “Do something for someone and have an enjoyable club life for yourself!”
「誰かのために奉仕して 自分のための楽しいクラブライフを！」
湘南・沖縄部部長(DG) 小松仲史 (厚木)
主 題 主 題 「楽しく・元気よく・前向きに」・副 題: 「入りたくなるワイズにしよう」
クラブ会長 吉原 訓 主題「原点回帰」: 副会長 若木一美・書記 加藤利榮・会計 岡 進・メネット 吉原和子



会員ひとこと

☆「子育て連絡会」から☆ 薩摩 藤太



先日、湘南とつかYMCA 近隣エリアを担当する上倉田地域ケアプラザが主催する「子育て連絡会」に出席させていただきました。それぞれの領域・専門性から子育て支援に係る施設・団体・ボランティア・行政の方々が集まり、地域における子育て支援をどのように進めるか意見交換したり、お母さん向けの「子育てマップ」を作成したりと、積極的な取り組みが行われています。

今、子育て真っ最中の世代は「ミレニアル世代」から「Z世代」と言われ、早くからスマートフォンを使いこなしITリテラシーが高く、SNSを介しての情報収集、情報発信、人とのつながりや共感を大切にする世代と言われています。まるで異質な世代に感じることもありますが、彼らの生活や価値観に目を向けていくと、意外とアナログな支援が求められているようにも感じます。

ただただ話を聴いてくれる「お母さんよく頑張ってるねえ。」「そのままでもいいんだよ。」といった声をかけてくれる存在が、慣れない土地で子育てに疲弊するパパ・ママにとってとても大きな助けになっています。それを担うのは前世代の「子育ての先輩」たちです。支援する側とされる側の相互理解と歩み寄りが、より効果的な支援につながることを、そしてYMCAの目指すポジティブネットの大切な礎になっていると信じます。

“To acknowledge the duty that accompanies every right”

★強い義務感を持とう 義務はすべての権利に伴う★

◎今月の聖句◎

主に結ばれているなら自分たちの苦勞が決して無駄にならないことを、あなたがたは知っているはずだ。
~コリントの書翰の手紙15章58節から~
イースターを迎え、神の恵みとこの世のすべての問題や罪、死などから打ち勝つことを切に願い、祝福が皆様一人ひとりの上に満ち溢れますことをお祈りしております。一日も早く喜びと希望の時になりますように…。

強調月間

W4W ・ RBM

W4Wは、Week for Waste 「ゴミのための週」、ワイズと地域社会を結び、よりクリーンな地球を目指そう…と4月22日(アースデイ)に合わせて国際が提唱。前年度は、YMCAに呼び掛け、合同でゴミ拾いを実施。RBMは、Roll Back Malariaの略、国際が提唱する献金種目の一つに指定され、国連開発計画の一環となる。

~3月の会合~ 会員数 : 11名
例会出席 : メン 8名 ・ 出席率 : 90%
リーダー・メネット他・26名参加



日時：2023年3月25日16：30～18：00
 場所：湘南とつかYMCA・2階 205号室
 出席者：湘南とつかYMCA卒Yリーダーら25名
 吉原・浦出・加藤・鈴木・瀬戸・土方・若木・
 薩摩・吉原ネット 計)34名 (敬称略)
 桜の開花が早まり、街は「はなざかり」、でも
 本日は雨、邪心なく会合に集中のひとつ時でした。

今日は、2022年度湘南とつかYMCA所属のリーダー卒Y会をメインに例会を開会、まずは、当面の活動の確認、6月開催の甲府の東日本区大会は、残念ながら、都合がつかず、欠席となること。区への入金状況の確認、恒例の「竹の子例会」は、クラブ会員と湘南とつかYMCAリーダーと職員を対象に実施することを確認、日程等については、おって、調整の上、後日連絡することを確認しました。

YMCAからは、3月末から4月2日(日)は休館となること、その他、当面の活動状況・予定等につき報告がありました。

4月期の例会等の会合については、第3土曜日(15日)・13時から開催し、当日は、地域の方々や関わったリーダーたちとの連携事業を検討中で、いずれにしても、身の丈に相応しいプログラムを現在検討中とのことで、地域・YMCA・リーダー会・ワイズ各サイドで煮詰めていきたいとのことであった。➤

一連の協議・確認が順調に終わり、卒業するリーダー11名中、当日は7名が出席、クラブから花束(ブーケ)が贈呈されました、…とともに、ワイズのPR誌を挟んだ3月号ブリテンも忘れずに添えて贈られました。その際に、薩摩館長・リーダー代表・吉原会長から交々「贈ることば」等も述べられました。

なお、今期卒業のリーダーたちとは、神奈川県西部のナリタ発電所見学や柏尾川周辺地域のゴミ拾い・ウォーク、それにタケノコ例会にも参加した思い出があります。また、プールでのシンクロナイズ教室も見学、今後、皆さんの活躍を祈るや切なるものがあります。



☆ ユースリーダー感謝会から ☆

どんより曇り空の3月5日(土)の午後、第2回横浜YMCAユースリーダー感謝会が、関内中央YMCA9階チャペルで開催された。青少年活動を始めて53年目となる私には昨年もこの会に参加しましたが、同じ体験を重ねるごとに、多くのリーダーからの話しを聞くたびに、当時の思い出が甦ります。

会場に13名、オンラインに3名のユースリーダーが集い、リーダーOB4名からのメッセージがあり、リーダーからは「キャンプ」「カンファレンス」「リーダー研修会」の報告がありました。

活動する施設や内容が異なるリーダーを横につなぐ努力がなされたこと、寿町(旧称:ドヤ街)の活動を通して社会の様々な課題を学び得たこと、性格の異なる参加者と接する難しさ等々が紹介され、話題となりました。

小憩の後、1グループ5名程度・6グループに分かれて活動の内容や感じたこと等々意見交換の時間がありました。私のグループでは、今年卒業する北Yのリーダー、大学2年生の川崎Yのリーダーと厚木保育園の職員さんでした(写真・左下)。直接、企画段階での悩みや達成した時の充実感等が伝わってきました。



その後、卒業するリーダーには盾と聖書が贈られ、佐竹総主事から「感謝のことば」と共に活動しましょうとのご挨拶がありました。➤

終わりには、一同、記念写真に納まり(写真・右下)、定刻の17時、閉会となりました。

湘南とつかYMCAでリーダーだった高井陽一朗君は、このほどYMCAの職員に内定した旨、話しておられました。

次の世代を育てるために、この貴重な体験が、将来必ずや役に立つと思います。受け入れる側として「無理をせずご活躍ください。この度はおめでとうございました…」と、心より念じ、雨脚のやや強くなってきた家路へと、加藤さん・鈴木さん・伊藤メネットさん共々、熱気の冷めやらぬ会場を後にしました。



～写真は2葉とも三上職員からのご提供による。～

特別寄稿

☆アメリカ・ワイズの凋落学ぶ☆



札幌ワイズメンズクラブ 中田 靖泰

東西日本区の会員減少、高齢化が止まりません。30年前、私がBF代表としてアメリカ地域へ派遣された時のことを思い出します。

ワイズ発祥の地アメリカのワイズは、かつて会員数8,000を誇っていましたが、私が訪問した1994年には会員数は4,000を切り、凋落の影が全米を覆っていました。その凋落の原因は(いづこも同じことですが)会員減少と高齢化でした。

その原因はクラブの閉鎖性、地元中心主義にあったと私は思っています。かつての古き良きアメリカではどの町にもYMCAがあり、町の青少年はそこに集い、そこで成長し、そこで人生を送ったのです。しかし、時代は変わりました。社会は都市化し、流動化していきました。アメリカ・ワイズはこの時代の流れを読むことが出来なかったのではないのでしょうか。

私が訪問したクラブの年会費は殆ど40~60ドルでした。その中に国際会費20ドル、アメリカ地域会費10ドル、区費10ドルが含まれています。クラブには1ドルも残りません。部費はゼロです。そのため、活動の中心はファンドレイジングが中心となります。区報、部報、クラブブリテンなどはほとんど発行されていませんでした。他のクラブには何の関心もない様子でした。

今、アメリカ・ワイズは会員1,000名を切り、ワイズ創立100年にもなんの役割を果たすことも出来ていません。私がアメリカを訪問した時、会員3,000名で「日本区6,000!」を目指して意気盛んだった日本ワイズも今、東西合わせて2,000そこそこです。時々、30年前のアメリカ・ワイズを反面教師として思い出すのです。自クラブ中心主義を捨て、Think globally and act locally. を実践して、他国、他クラブと競い合い、学び合い、知名度を上げ、上からの目線で奉仕を振りかざすのではなく、「自己研鑽」「学びの場」としてのワイズを作り上げる以外に青年を呼び戻す手段はないのではないかと思います。皆様はどうお考えでしょうか…?

(中田様 ご多用中のところ玉稿頂き 誠に有り難うございます。お陰様で、紙面全体が引き締まった思いがします。

私も、貴兄よりもさらに10年ほど前の79年にBF代表で北米を訪れたころは、活発なクラブばかりでしたが…。B/e)

☆1年ぶりの外出プログラムを実施☆



ワークサポートセンターレザンでは、3月3日に約1年ぶりの外出プログラムを実施しました。

行先は、みなとみらい21地区にある「カップヌードル・ミュージアム」です。ここでは、インスタントラーメンの歴史などの展示と体験ができるようになっています。

今回は、「チキンラーメン」を油で揚げてオリジナル・

揚春随想

☆沖縄クラブチャーターナイトに出席して☆



京都ウエストクラブ 森田 恵三

2023年1月27日那覇空港に到着した私と息子の真吾の二人は、私のロータリー時代にカウンセラーを引き受けていたミャンマーの留学生オーン・マー・ミョウ・トウエ(現在那覇イオン勤務)君に迎えられ、市内を観光の後、パームロイヤルホテルに投宿。夕刻にはウエストクラブの13名も揃い、沖縄料理で前祝い。

沖縄ワイズメンズクラブの(チャーターナイトは翌28日午後5時から那覇セントラルホテルにおいて開催されました。出席者にはファイルが贈られ、式次第のほか、リスト・設立経過・沖縄そのものの紹介として、「約450年間にわたり日本の南西諸島に存在した王政の国」と題した歴史物語が収録されておりました。

当日、お祝いの出席者は、田上 正西日本区理事を筆頭に区役員15名のほか、九州部2名、京都部から25名、沖縄10名計52名での祝宴となりました。

沖縄クラブは、金沢八景クラブをスポンサーとして2009年11月に創設され、その後2017年8月に京都トウビーとDBC締結。19年度には森田幸二郎ワイズが湘南・沖縄部部長に就任時に西日本区への転籍を申し出られ、2021年東日本区役員会がクラブの‘みなし解散’を承認され、同年5月には、解散となりました。

そして、改めて沖縄クラブは京都トウビーを親クラブとして設立、西日本区においては定款変更の手続きをもって、東西両区の所属となった次第です。

その後、本年5月には今回と同様に、森田ワイズ・伊藤ワイズらがキーメンバーとなって、沖縄新風(ミーバイ)クラブを創立して、2つのクラブをもって沖縄部の開設を目指すとの計画が発表されました。

いづれにしても、長年にわたった慣習で所属されてきた東日本区を離れるという現象に驚きをもって眺める私には、大事なチャーターナイトにもパートナーたるYMCAからの祝電もなかったこと、東日本区からも何方もご出席がなかったこと、少人数クラブからまた3人もの会員が新クラブにキイメンバーとして移動されるという急激な変化には、正直なところ少々気懸りなことに思いますが、成功して沖縄部発展の道が開ければうれしく思います。(了)

横浜YMCA ワークサポートセンターレザン 相馬 良文

パッケージを作る体験をいたしました。

ひよこ柄のおみやげも楽しい気持ちを盛り上げてくれました。

コヨミどおりの暖かなひと時でした。





担当主事 瀬戸俊孝

先日、3月25日(土)、2頁に若木ワイズも書いておられるように、「2022年度湘南とつかYMCA リーダー卒Y会」のテーマで卒業セレモニーを開催しました。

当日は、とつかワイズメンズクラブの第1例会の日に当たり、この機会を利用すれば、卒業のリーダーはもちろん、かねてリーダー会との交流を熱望しているワイズメンにとっても絶好の機会と理解、記念品の花束(ブーケ)贈呈も必ずや盛り上がる…との見通しを付け、1階ホールにテーブル椅子を並べ、開会予定時刻の17:30を待ちました。

17時過ぎに別室で例会を終えたクラブの皆さんがホールへ、あらかじめ他のリーダー共々着席して待つ中、ワイズの方々も…。そして、予定通りに薩摩館長の挨拶で始まりました。次いで、吉原ワイズ会長のごあいさつに続き、写真にあるような花束をマンツーマンで贈呈、双方やや緊張の中にセレモニーは無事終了、一瞬、会場は和やかなムードに包まれ、大きな拍手が…。終わりは、集合写真に全員が収まり、ワイズとの交流もめでたし～。



【今月の歳時記】 “花見 はなみ・行く春 ゆくはる”

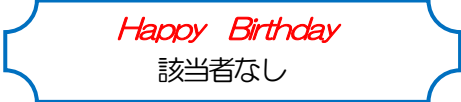
花見：古代における花見は、桜でなく梅であったという。桜を賞する習慣は、平安時代に起った。当時はもっぱら貴族の行楽で、酒を飲みながら詩歌をうたった。庶民の行楽となったのは元禄以降のこと。秀吉の「醍醐の花見」は有名。昔、農村においては、花見は農作に先立って守らねばならぬ春の儀礼の一つで、別名、花見正月ともいった。

うかうかと来ては花見の留守居かな 丈草
老いそめて花見るところひろやかに 蛇笏
車椅子押して城址の花見かな ひろ

行く春：まさに終わろうとする春で、惜春の心をこめていう。春はとりわけ楽しく明るい季節だけに、それが尽きようとするときには、なぜか物淋しい気持ちにさせられる。昔から多くの俳人に詠まれた季節でもある。

行く春や鳥啼き魚の目は泪 芭蕉
行く春やおもたき琵琶の抱えごころ 蕪村
ゆさゆさと春が行くぞよ野への草 一茶

- ◎ タケノコ例会：4月?日(土)11時・吉原会長邸
近くなりましたら担当主事から連絡させていただきます。
- ◎ 4月15日(土)
コースリーダー交流会・湘南とつかYMCA
- ◎ 4月26日(水)厚木クラブへ・会長ほか



★ トピックス

加藤利榮

(その一) ‘ワカイ!… っいいいもんだナ…’

3月は、リーダーたちとは、5日の中央YMCAでの第2回コースリーダー感謝会(本誌2頁所載)を皮切りに、瀬戸さんも書いておられるように、何度か交流する機会に恵まれ、若き息吹きを分けてもらいました…。

これからも、‘こちらこそよろしく…’とお願いします。

(その二) ‘このコピ止まれ?…’

久しぶりにお声が掛かりました…、それも子クラブのアツギから…。ここ2、3年、とんとお声が掛からないな…と思っていた矢先です。日時は今月の第4水曜日・26日・18:30～・厚木YMCAです。

ハナシの中味は、相変わらず実のないものですが、‘春宵一刻…’とはいかないまでも、お気の向かれた方々と、久方ぶりに是非、お会いしたいです…。

(その三) ‘年度の変わり目’に…

連続テレビ小説が終わる、新職員が配置されてくる、そして、職場の雰囲気もいつもと違う…、あの人で大丈夫なの…? 心配ご無用、そこは名だたる組織の中、‘新採用職員と懸けて人工衛星の打ち上げ…、と…。そのココロは…、間もなく軌道に乗ります…!’

逆に、‘贈るコトバ’には、ちょっとした気配りや思いやりが必要かもしれませんね…。

長くお世話になった職場を離れる相手の身になって。

(その四) ‘掛かり付けのお医者さん…’

定年で勤め先をやめたところから…、とするとそろそろ30年以上になりますか…。地元の実績のある病院の内科のT先生には、ヤマイ+α…とお世話になっております。診察室に入った途端、「…今から入院…よ、看護婦に直ぐに手配させるからね。」…と言われるのも日常茶飯事に。

先生の存在は、正に体内の善玉ケツエキの…。また、時に、乞われてスタッフ皆さんのカウンセリングも…。

《後記》

コロナ去りて 陽春の香り いつまでも…